

子どもの育ちを幼稚園や  
保育所等と小学校で  
共有しています



幼稚園や保育所等においてはぐくまれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研修の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、小学校教育との円滑な接続を図るよう努めています。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- **健康な心と体**  
自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
- **自立心**  
自分の力でやり遂げる体験などを通じて自信をもって行動するようになる。
- **協同性**  
友達と一緒に目的の実現に向けて考えたり協力したりするようになる。
- **道徳性・規範意識の芽生え**  
よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになる。きまりを守ったりするようになる。
- **社会生活との関わり**  
家族を大切にしたり、身近な人と触れ合って地域に親しみをもったりするようになる。遊びや生活に必要な情報を役立てて活動したり、公共施設を利用して、社会とのつながりを意識するようになる。
- **思考力の芽生え**  
身近な現象から物の性質を感じ取ったり、予想したりして、多様な関わりを楽しむようになる。
- **自然との関わり・生命尊重**  
自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。生命の不思議さなどに気付き、動植物を大切にようになる。
- **数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**  
遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しんだりして、興味や関心、感覚をもつようになる。
- **言葉による伝え合い**  
経験したことなどを言葉で伝えたり、話を聞いたりして、伝え合いを楽しむようになる。
- **豊かな感性と表現**  
心動かす出来事に触れ、感じたことを表現して、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

学童期

幼児期の「あそび」を通しての  
総合的な経験が、小学校での  
生活や学びにつながります

### 資質・能力「3つの柱」



上記の資質・能力「3つの柱」は、幼児教育から小学校以降の学校教育を通して、はぐくまれていくものです。

0歳から高校卒業までの「育ちと学びの連続性」を実現していく上で、幼児教育はその土台を担います。

そして、乳幼児期の生活や遊びが小学校就学以降の学びへとつながっていきます。

発行：さいたま市幼児教育・保育研究センター



※「さいたま市幼児教育の指針」について詳細を御覧になりたい方は、右記の二次元コードを読み取ってください。

この印刷物は14,000部作成し、1部あたりの印刷経費は8.9円です。

# あそびで育つ 輝くさいたまの子



## さいたま市幼児教育の指針 保護者向けリーフレット

子どもの成長には長い時間がかかります。保護者をはじめ、多くの大人の助けが必要です。日々、お子さんが成長する姿を前に、みなさんは驚いたり、笑ったり、時には泣いたり、くやしがりたり…。かけがえのないお子さんとの生活はわくわく、ドキドキの連続でしょう。

令和2年3月に、さいたま市の幼児教育が目指す方向性として、「さいたま市幼児教育の指針」を策定しました。乳幼児期は、子どもたちが将来をたくましく生きる力の原点となります。

本市では、家庭と園、地域、行政が共に手を携え、信頼関係を築き、一人ひとりの子どもが価値ある存在として尊ばれることを目指しています。

このリーフレットが、皆様のお役に立てることを願っております。

乳幼児期

## さいたま市の幼児教育が目指す子ども像 あそびで育つ 輝くさいたまの子

さいたま市の幼児教育では次のことを大切にしています！

※本指針では、子どもの主体的で自発的な活動を総称して「あそび」と表現しています。

### 「あそびで育つ」

子どもの生活は、「あそび」を中心に展開しています。「あそび」を通して子どもは人としての発達の基礎となる様々な力をはぐくんでいきます。

そこで、本市の幼児教育では、**乳幼児期の「あそび」を重視した保育を大切にしています。**

ご家庭でも、お子さんが「あそび」に没頭したり、何度も挑戦したりする姿をあたたかく見守りながら、繰り返し楽しめる環境や、子どもの成長を支える大人のかかわりを大切にしましょう。

### 「輝くさいたまの子」

子どもが「輝く」ためには、子どもの人権を尊重し、一人ひとりの子どもを価値ある存在として捉えることが大切です。大人のあたたかな眼差しの中で生命が守られ、子どもが心身共に安心して居ることができる環境があって初めて、子どもはのびのびと自己を発揮し、「輝く」ことができます。

そこで、本市の幼児教育では、**一人ひとりの子どもが、夢や希望をもって輝く保育を大切にしています。**

ご家庭でも、感動や喜び、楽しさ、悔しさや葛藤といった様々なお子さんの思いに寄り添いながら、成長を支えていきましょう。

本市では、子どもの育とうとする姿に着目し、**大切にしたい4つの視点**を設けました。ご家庭で、お子さんの育ちを支えるときに捉えてほしい視点です。

4つの視点とは、「**ゆったり**」「**すくすく**」「**わくわく**」「**のびのび**」です。

あそびで育つ 輝くさいたまの子 大切にしたい 4つの視点	
ゆったり	ありのままの自分で安心して生活する
すくすく	健やかな体で安全・快適に生活する
わくわく	主体的・自発的に活動する
のびのび	自分なりの表現で人やものとかかわる

## 「4つの視点」を 家庭でとらえると…

### ゆったり

ありのままの自分で安心して生活する



愛着形成

健康・安全の保障

応答的なかかわり

ありのままの姿



### 家庭で支える「ゆったり」

- スキンシップやあたたかな言葉かけ、子どもの思いに耳を傾けることを大切に、**ありのままのその子の姿**を受け止めましょう。大切にされている実感がもてると、自分自身や、友だちを大切にしようとする心が育っていきます。
- 自分の気持ちを共感的に受け止めてもらうことは、自分の思いに気付いたり、相手の思いに気付いたりする心の育ちにつながります。**子どもの素直な気持ちを共感的に受け止める**ことを大切にしましょう。



### すくすく

健やかな体で安全・快適に生活する



基本的な生活習慣

体を動かす心地よさ

意欲的に取り組む姿

必要感の積み重ね



### 家庭で支える「すくすく」

- 大人に丁寧にやってもらったり手助けをしてもらったりすることで、「**自分でやってみよう!**」という**自立への意欲**が段々とはぐくまれていきます。
- 子どもは遊びを創り出す名人です。楽しい遊具がなくとも、泥や木、水、広々とした原っぱ、狭い隙間などでも遊びます。**安全を保障しながら、体全身や手先等を使って工夫した遊び**を大切にしましょう。



### わくわく

主体的・自発的に活動する



好奇心や探究心

葛藤や試行錯誤

没頭して遊び込む経験

様々な人やものとの出会い



### 家庭で支える「わくわく」

- 子どもがじっくり集中して遊んでいるとき、大人はぜひ「どこに面白みを感じているのだろう?」とじっくり観察してみてください。**面白みを共有**することで、より子どもの気持ちに近づいていきます。
- お買い物、バスや電車での移動、地域で出会う人たちの働く姿、いろいろな生活の場に子どもたちは興味津々です。そこで見たり聞いたりしたことを遊びに取り入れれたり、憧れのまなざしを向けたり…。特別にどこかに出かけずとも、**普段の生活の中にある出会い**を大切にしましょう。



### のびのび

自分なりの表現で人やものとかかわる



共感的に受け止める

五感を使った直接体験

表現する充実感

他者とのかかわりの出発点



### 家庭で支える「のびのび」

- 子どもの表現は、その子だけの宝物です。誰かと比べたり、評価したりするのではなく、表現した時のその子の気持ちに耳を傾け、**その子なりの感性をまるごと受け止める**ことで、子どもの自己肯定感が養われていきます。
- **子どもの心が動かされるような、様々な人、もの、ことに出会える機会**をつくりましょう。子どもが生き生きといい顔をしているかが一つの目安です。うまくいかない経験をするこも、子どもが育つチャンスと捉え、支えましょう。

